

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 5月 23日

事業所名 ひるがお郡

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用者様が、楽しく活動に参加できるスペースは確保できている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		利用者が安全に楽しく過ごせるように職員3～4人を配置できている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		入口、室内とバリアフリー化されている。手すりの位置にも配慮をし、過ごしやすい環境となっている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務前の申し送りや、月1の事業所会議で支援計画の振り返りを行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1度アンケート等を実施し、保護者様の要望・意見を把握し、業務改善に繋げている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		令和元年度より実施している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後検討し、外部評価を行える体制を整える。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修の充実を図り、職員の資質向上につなげている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		家庭支援や家庭連携用紙を活用し、保護者様と児童のニーズを把握したうえで計画書を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		より状況を把握しやすいアセスメントシート、フェイスシートを作成した。毎年更新を行っている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		週間プログラムを元に、その日の状況や利用者様に合わせて職員で検討して決めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		公園、ドライブ等の行き先を工夫し、固定されないようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		個々の個別目標を決め、課題に取り組むようにしている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団活動後に個別活動を行っているが、見守り支援が主となっている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援準備前にその日の予定を職員間で確認し利用者支援に対する引き継ぎを行っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		情報共有ツールを活用したり、支援の振り返りについては翌営業日の支援準備前に職員間で行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々、活動記録を作成することにより職員間で共有し改善につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月に1度モニタリングを行い、計画書の見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		基本活動を組み合わせながら個々に必要な支援を行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的には、児童発達支援管理責任者が参加している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		コロナ禍において集まることはできていないが、学校からの手紙や下校時の先生との申し送り等で行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現在は医療的ケアを必要とする利用者はいない為行っていないが必要であれば検討していく	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		相談支援専門員を通して情報共有を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		障害福祉サービス事業所等の移行先から依頼があれば情報提供を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達支援センター等への見学は実施している。今後は定期的な連携を取れるよう取り組んでいきたい。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	コロナ禍において、他機関に出向いての連携や研修には参加できていない。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		法人内職員が参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時又は、電話にて、保護者と直接連携をとり、共通理解を図っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		家庭支援を通してペアレントトレーニング・相談助言等の機会をもらっている	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時、契約変更時、書面、口頭での説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		家庭支援時や送迎時、日々の連絡ノートにて保護者との連携を取り、相談等にお答えしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍において現在、父母の会等に関する具体的な支援活動は行っていない
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情対応マニュアルを元に迅速に対応する様努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		「ひるがおだより」「きららニュース」を定期的に発行し、連絡事項、情報の発信をしている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		書類については事務室で管理をし、職員に対して守秘義務の徹底を促している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個々の状況に応じて、しっかりわかりやすく伝えることができるよう場面や言葉のチョイス、書面等で配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナ禍においては、活動を控えている。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを作成しスタッフ間で周知している。保護者様へも手紙等配布しご理解を得ている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		直近では令和4年4月に避難訓練を行い、今後も長期休暇等を利用して計画している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を発足しており、委員会を中心に社内研修を実施することで職員間で虐待防止に関する理解を深めてい	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		委員会を中心に所内会議等で検討を行っている。やむを得ない身体拘束が必要なご利用者様については、書面にて説明を行い同意と署名をいただいている。また内容を個別支援計画書に記載し、経過観察のうえ半年毎に再検討をしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		現在該当する利用者様はいないが、指示書がある場合はそれに基づき対応する。保護者様と連携を取り、アレルギー食材を完全に除去し、対応してい
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		安全委員を中心として、月1度の事業所会議にて共有している。	